

▼スタジオ撮影のリハーサル。収録の前日にていねいに行います

# パンジーメディア

## 知的障害者が発信する放送局

小川道幸(パンジーメディア・エグゼクティブプロデューサー)

●毎月1回、インターネットでアップされるパンジーメディアの番組「きぼうのつばさ」。知的障害者が制作に加わり、自分たちの考えや思いを発信する日本で初めての試みです。

●放送開始は、2016年9月。参加した当事者も支援者も映像制作は初めてです。撮影のワークショップ、表現の練習、当事者のアイディアで短編ドラマの制作と少しずつ積み重ね、初回放送では、50分を超える番組が出来上がりました。ニュース、料理コーナー、当事者が自分の人生を語る「私の歴史」、そして入所施設と闘う知的障害者のドラマまで、当初の予想をはるかに超えた番組になりました。今年3月で、放送は18回になります。

●準備から数えて2年。視聴者からは「これまで知らなかった知的障害者の思いが分かった」「何を考えているか分からない、怖いと思っていた知的障害者への偏見がなくなった」などの声が寄せられました。

●そして、始めたときには想像もつかなかった変化がありました。番組制作に参加した当事者が「自分には役割がある」と元気になったことです。また、自分の人生を語るなかで、これまで心の奥に閉じ込めていた思いを吐き出し、積極的になってきました。

●知的障害者への偏見や差別は、今もなくなりません。虐待などの事件も後を絶ちません。社会が彼らのありのままを受け入れてくれれば。パンジーメディアは、そんな日が訪れることを目指して、活動を続けています。



◉「バンジーキッチン」作る人も食べる人も知的障害をもつ人

## バンジーマディア

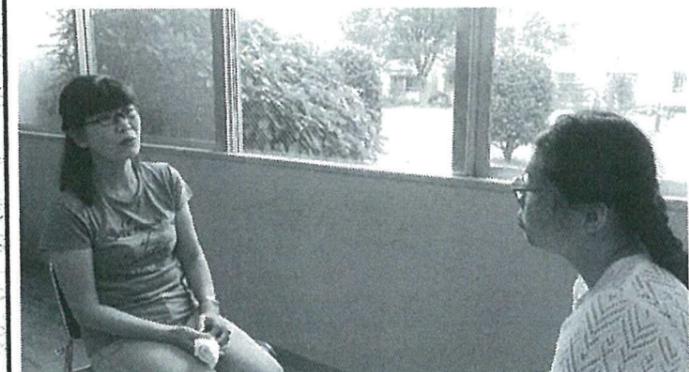
知的障害者が発信する放送局



◉「地域で普通にくらす」グループホームを舞台にドキュメンタリーを制作中



◉「私の歴史」心に閉じ込めてきたこだわりから解き放たれる時間です



◉「バンジーの眼」相模原事件のその後取材する記者。知的障害当事者です



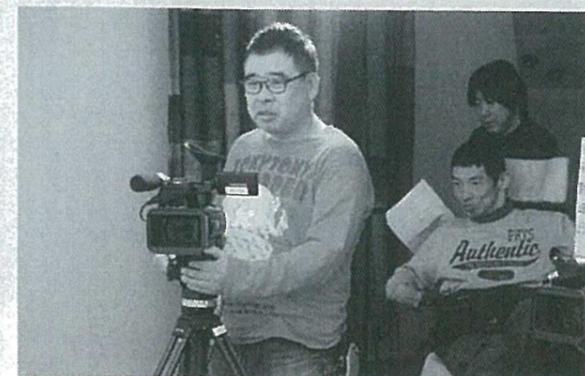
◉ドラマ「闇の王」入所施設と闘う当事者の物語



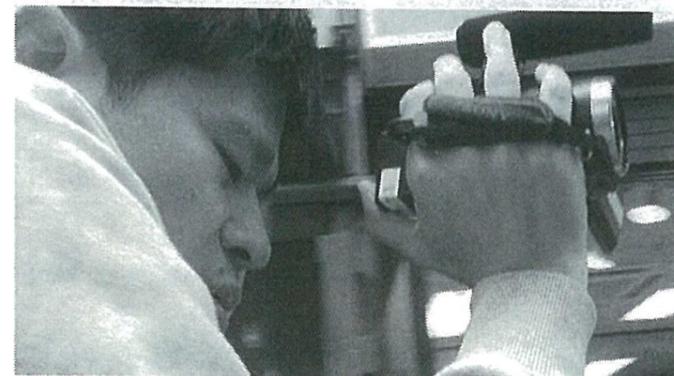
◉時間マイクを持ち続けるサウンドエンジニア。体力と感性が必要です



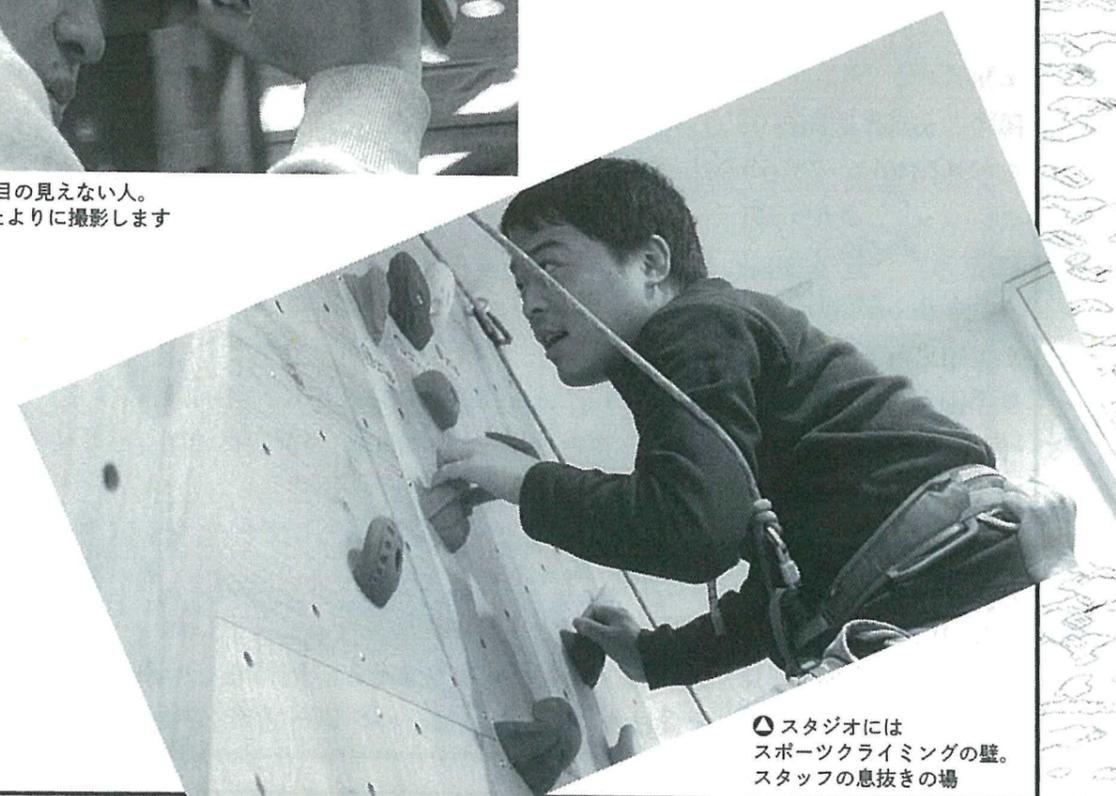
◉「きぼうのつばさ」のキャスター。始めて1年半、ベテランです



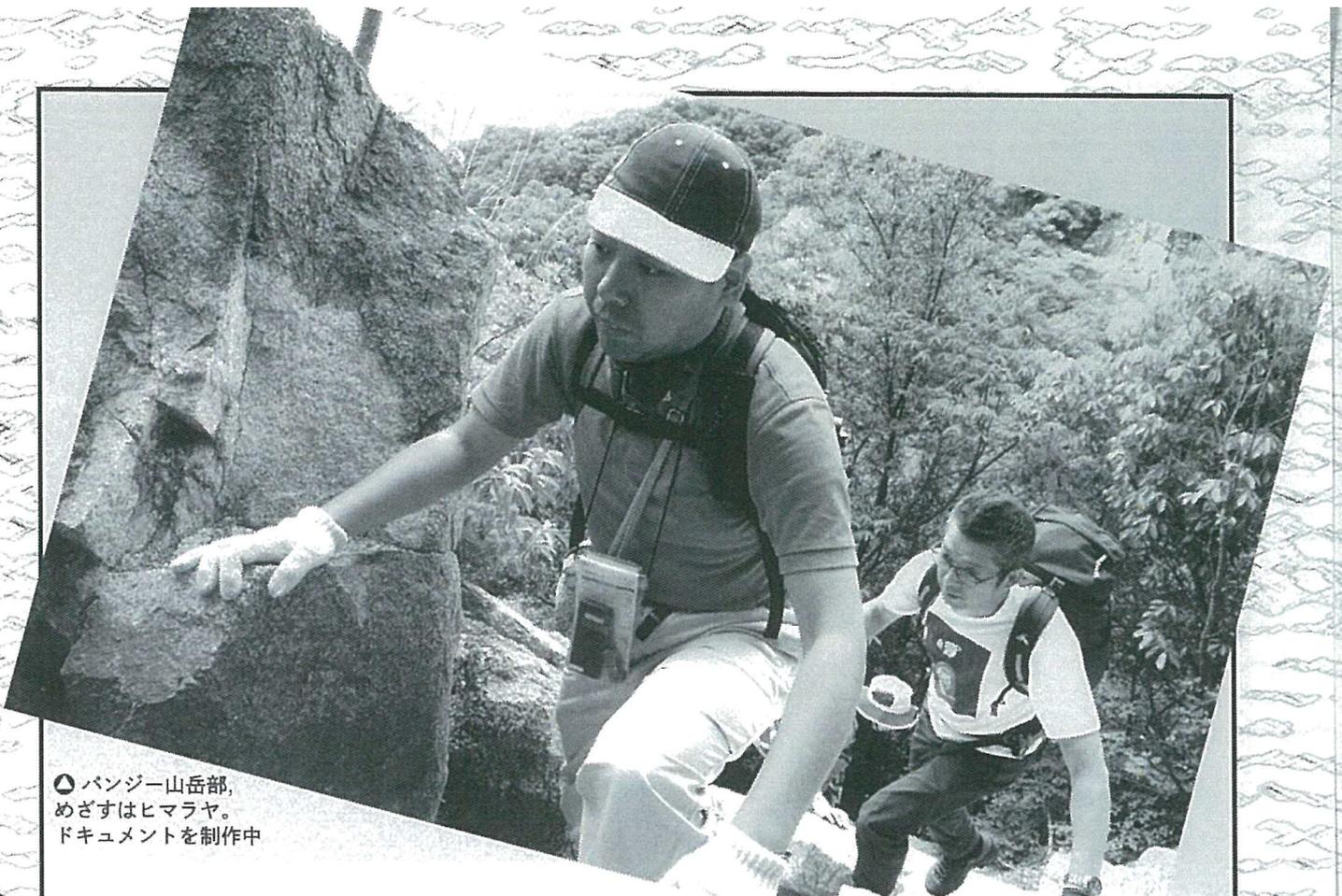
◉カメラスタッフを後ろから見守るプロデューサー



◉カメラマンは目の見えない人。音や匂い、風をたよりに撮影します



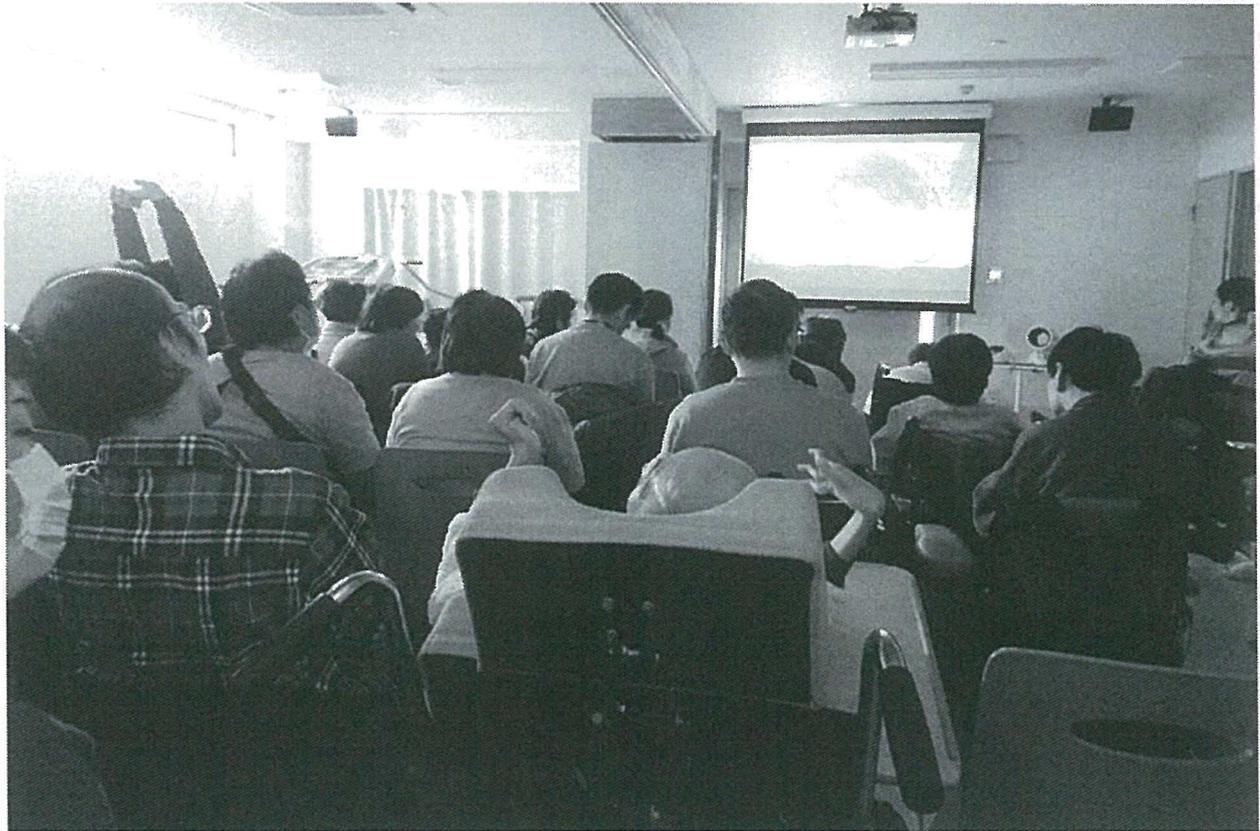
◉スタジオにはスポーツクライミングの壁。スタッフの息抜きの場



○パンジー山岳部、  
めざすはヒマラヤ。  
ドキュメントを制作中

## パンジーマディア

知的障害者が発信する放送局



○毎月の完成試写会は、約80人が参加。映像にみんな釘づけです